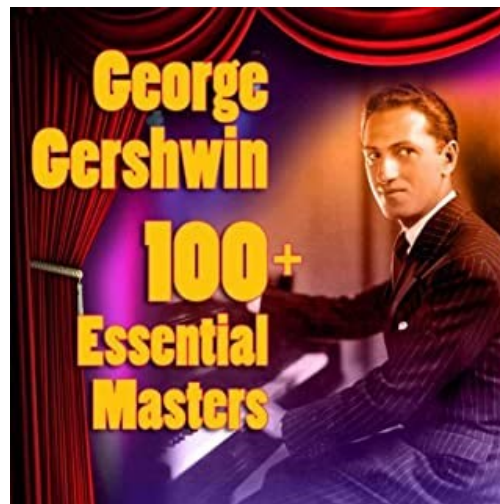


第19回 スクリーンコンサート 2023.1月

今月のテーマ 作曲家 ジョージ・ガーシュウィン

20世紀の最も偉大なアメリカの作曲家ジョージ・ガーシュウィンは、ジャズとクラシックを融合し、華やかなアメリカン・ミュージックを展開した作曲家です。ガーシュウィンは兄弟のアイラとともに作曲した数々のスタンダード・ナンバーに、洗練された楽曲構造を持ち込みました。独特のシンペーションを持つピアノ・サウンドに代表される音楽をラグタイムと言います。基本的には、ジャズやラグタイムはアフリカ音楽とヨーロッパ音楽の融合ということになります。



NHKクラシックTVから

LOVEガーシュウィン 30分

曲目

1、スワニー (2分)

当時大スターであったアル・ジョルソンが「スワニー」を聴いて自分のショウにいれたのがきっかけでミリオンセラーとなり、ジョージ・ガーシュウィンはたちまちソングライター界の寵児になった曲です。

2、サマータイム (4分)

サマータイムは、ガーシュウィンの歌劇「ポーギーとベス」の中で歌われるアリアです。

3、パリのアメリカ人 (17分)

ガーシュウィンがヨーロッパ旅行の際に訪れたパリの紀行文的な標題音楽となっており、実際の演奏ではパリのタクシー用のクラクションが楽器として用いられるなど、パリの街の様子がウィットを交えて生き生きと描写されている。

1951年公開のミュージカル映画『パリのアメリカ人』があります。

4、ラプソディー・イン・ブルー (22分)

クラシックとジャズを融合させた音楽として知られるが、ガーシュウィン自身は同曲のカテゴリを単に「Jazz Band and Piano」と呼んでいたという。

冒頭のクラリネットが奏でる低音からのグリッサンド奏法が挙げられる。グリッサンド (glissando) とは、一音一音を区切らず音高を滑らかに上げ下げする演奏技法。

ガーシュウィンのシンフォニック・ジャズの代表的な曲です

5、アフター・ミッドナイト (3分)

6、アイ・ガット・リズム (6分)

ヴァルトビューネ2003から

ベルリン・フィル恒例の夏の野外コンサート、ヴァルトビューネ。小澤征爾が登場して話題となった2003年のガーシュウィン・ナイトの映像です。

盲目のジャズ・ピアニスト、マーカス・ロバーツ率いるトリオが、ベルリン・フィルを圧倒的な存在感で巻き込み、古典的なシンフォニック・ジャズにモダンの要素を融合させたスリリングで興味深いパフォーマンスをみせています。

1. パリのアメリカ人
2. ラプソディー・イン・ブルー(マーカス・ロバーツ編) 0:21
3. ピアノ協奏曲
4. アフター・ミッドナイト 1:26
5. ストライク・アップ・ザ・バンド(ドン・ローズ編)
6. アイ・ガット・リズム 1:37

【演奏】

マーカス・ロバーツ(ピアノ)

マーカス・ロバーツ・トリオ

ローランド・ゲリン(ベース)

ジェイソン・マルサリス(ドラムス)

ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団

小澤征爾(指揮)

2003年6月29日 ベルリン、ヴァルトビューネ(ライブ)